

授業料等不徴収協定に基づく派遣交換留学終了報告書

1. プログラム概要

私は2013年8月1日～10月11日に、シンガポールの南洋理工大学(NTU)で、交換留学をしていました。NTUは1991年にシンガポール政府により設立され、とても若い大学ですが、設立以来、急速に成長してきました。QS World University Rankings 2013によると、NTUは全世界の41位に位置付けられます。特に、Business、Computer Scienceなどの学科が有名です。NTUが交換留学プログラムを積極的に取り込んでいます。今年、世界から500名以上の交換留学生在がNTUに派遣されました。今回の派遣先はComputer Science専攻でした。2ヶ月プラス1週間ぐらいの短い期間でしたが、NTUで新しい友達をたくさん作ったり、異文化を体験できたり、すごく楽しかったと思います。

2. 手続き準備

留学期間中、修士課程を修了して、博士課程に進学しますので、出発前に、修士卒業・博士入学の諸手続きを完了・準備しなければなりません。特に、修士論文の作成・発表会を事前に行う必要があります。これらの準備に意外に時間がかかって、少し大変でした。

3. 受け入れ教員との研究計画の相談

今回の留学タイプが「Research」なので、事前に受け入れ教員と連絡して、研究の計画・目標などを定めた必要があります。私の場合、出発する前に、受け入れ教員とメールでやり取りをして、計画を決めました。そして、現地に着いたら、また先生と何回も面談して、研究の方向を決め、進捗を報告いたしました。

4. ビザ申請

シンガポールの学生ビザがオンラインで簡単に申請できます。NTUからのOfferメールに伴うIPAレターにビザ申請用の番号・パスワードが書かれています。それを使って、シンガポール入国管理局のポータルサイト(ICA)にログインして、基本情報・写真などを入力して、一時ビザ(渡航用)を申請できます。2・3日ぐらい後に、ICAからこの一時ビザを発行してくれます。この一時ビザと、パスポートなどを使って、NTUの中で、学生ビザを申請する手続きをします(OFAと呼びます)。しかし、このOFAが定められた日だけ行われますので、日付を間違いないようご注意ください。

5. 研究活動

私は、NTUのGameLABに所属していました。名前の通り、Computer Game、アニメーションなどに関するComputer Graphicsの研究が行われる研究室です。普段は、研究室内で

自分の研究をしていましたが、疲れた時、NTU の緑の多いキャンパスを良く巡り、楽しんでいました。

本来であれば、「Research」の交換留学生は講義を受講することができません。担当教員の許可を事前にもらって、私は研究に使えるような講義を2つ選んで、聴講生として受けていました。単位が取れないですが、NTUの講義を体験したり、研究に役立つ知識を学んだり、英語リスニング力を鍛えたりしていました。

NTUで受け入れ教員のProf. Zhengからアドバイスをいただいて、主に修士研究テーマを少し拡張しました。これが博士コースの前準備だと思っています。

そのほかに、修士段階の研究を纏めて、一篇の学術論文を作成して、「VISAPP 2014」という国際会議に投稿しました。この論文を作成する時、Prof. Zheng、NTUの友達などから多くの手伝いをしていただいて、心より感謝申し上げます。シンガポールから帰った後、10月28日に、「論文が採用された」というメールが届きまして、本当に嬉しかったです。

6. 語学関連

2013年度の語学要件が「TOEFLテスト73点以上」でした。欧米の大学に比べると、かなり達成しやすかったです。

NTUでの授業、ゼミ、部活などはほとんど英語です。それを聞き取れるために、「TOEFLテスト73点以上」では少し足りないと思います。少なくとも、80点以上を取ることがお勧めです。

シンガポールでの日常生活は、やはり英語が主流です。しかし、ほとんどの人の発音が標準な英語とは違って、特別なアクセントが付いている「Singlish」になります。最初は、なかなか聞き取れなかったです。欧米の友達も、同じようなことを言っています。不思議なのは、シンガポール人同士が、スムーズに速いスピードの「Singlish」で会話ができることです。むしろ、「Singlish」がシンガポールの方言でしょうか。

NTUのキャンパス内に、欧米の学生を良く見かけます。特に、今回交換留学生の内、60%以上がヨーロッパからの学生です。同じアジア圏の学生であっても、英語をしゃべる人が多いです。だから、英語の授業とか、友達との会話とか、ゼミ発表とか、英語を使うチャンスが一層増えました。自分の英語力が自然に少しアップしたことが実感できます。そして、英語の会話をした時の緊張感がなくなることも、すごく嬉しいです。以前、英語の学習を単純に受験勉強として扱いましたが、今は時々英語を話す意欲が出てきて、英語が好きになったことが、とても不思議だと思います。

7. 留学費用

今回の交換留学で、東工大基金から、往復の飛行機代と、7万円の奨学金をいただき、ご寄附の皆様に、心より深く感謝申し上げます。

授業料がかからなかったのですが、スポーツ施設利用・施設維持費などをNTUに払い

ました。その中に、保険料が一番高い項目でした。NTU 側が指定した保険と、海外留学保険を両方入らなければなりません。これらの費用が全部で大体 3 万 3 千円でした。そのうち、保険料が 2 万 8 千円ぐらいを占めました。

NTU のキャンパス内に、多くの学生寮があります。賃料が安くて、大体月に 300 ドル弱です。しかし、学生の人数が多すぎて、寮の競争率が高いと言えます。NTU の学生によると、「部活に参加することにより、点数が取得できる。一定の点数が取れないと、来年度、学生寮に入れない」と学校の規則に書かれてそうです。NTU のパンフレットにも書かれているのは、「Research の交換留学生については、学生寮を申請しても、落ちる確率が 50%以上」という厳しい状況です。私は、最初から学外のアパートなどを探していました。

シンガポールの住居費は日本より少し高いと思います。日本のような一人暮らし用のアパートがありません。他の人と一緒に一つのユニットをシェアするのが一般的です。One room の場合、600 ドル以上かかります。Share room の場合、総人数に応じて、値段が変わります。私の場合、HDB（政府が建てた高層集合住宅）を借りました。4 人で 1 つの部屋をシェアして、月に 280 ドルかかりました。

シンガポールの食費は日本に比べて、安いです。NTU の中に、多くの Canteen（食堂）があります。メニューも多くて、中国料理・日本料理・インド料理など他国風の料理を楽しむことができます。しかし、味が全面的に少し辛いと思います。費用としては、月に 300 ドルぐらいでおさめられます。

8. 気候（服装など、荷物）

留学先のシンガポールが熱帯にあるので、厚い衣服があまりいらなくて、T シャツなど夏の服装だけを持って行けば結構です。年間平均気温が 27 度ぐらいなので、ちょうどいい、とても過ごしやすい所です。しかし、MRT（日本の電車に相当する交通機関）の中や、教室内は、冷房が強すぎて、長袖シャツがないと、本当に辛いです。

雨が頻繁に降っています。毎日とは言えませんが、2 日間に確実に 1 回雨が降ります。だから、折り畳み式の傘を常に持った方がいいと思います。

赤道の近くにあるため、紫外線が結構強いです。ビーチに行く時、サンブロックを使用した方が安全です。私は、暇な時、よく NTU の温水プールを利用していました。ある週末に、この露天プールを利用する時、少し休憩用の椅子に横になって、明るい太陽光を楽しもうと思いました。そして、サンブロックの使用を忘れて、裸で十数分ぐらいに強い日光に曝されました。結局、日焼けしてしまいました。

9. 観光

シンガポールは世界でも有名な観光地です。マーライオン公園・ガーデンズバイザベイ・セントーサ島など、全部東側のマリーナベイの付近にあります。また、Sun light・砂・海・ヤシの木などが飾られている East Coast Beach も、とても綺麗なところ。ぜひ時

間があったら、お楽しみください。

また、チャンギ空港から、タイ・インドネシア・マレーシアへの便が多数あります。しかも、値段も安いです。日本の国内旅行のように、東南アジアの諸国を一個ずつ観光する人が多いです。

10. 交通

普段、移動する時に、主に MRT（電車）を利用していました。バスも少し使いました。しかし、バスの場合、アナウンスがなくて、とても不便だと思います。そのほか、タクシー代がとても安いです。シンガポールが小さい都市国家なので、だいたい 30 ドルあれば、タクシーでどこでも行けます。

11. 留学経験を活用

今回の留学を通して、派遣先の NTU で自分の研究を他の研究者に紹介したり、彼らから貴重な意見をもらったり、学术交流をしていました。また、授業・ゼミなどに参加して、有用な知識を学んでいました。NTU での研究活動を、これからの博士課程の前準備だと思っています。博士時の研究をスムーズに進めることに役に立っています。

そして、派遣先で英語力を磨きました。もっと重要なのは、英語を話すのが好きになったこと。日本に戻ったら、英語を使うチャンスがかなり減りました。しかし、英語の勉強を続けて、楽しみながら、向上していきたいと思います。

そのほか、NTU で新しい友達をいっぱい作りました。皆さんと一緒に観光したり、食事をしたり、楽しい思い出をたくさん作りました。これからも、Facebook など、NTU の皆さんと繋がっていきましょう！